【令和8年度】 エシカファーム　ガイドライン評価改善シート

事業所名:　　うめな園IPPO

作成日:令和8年　9月　1 日

本部	代表	施設長
田中	風間	大池

前年度　施設目標	前年度の改善への取り組み	日々の小さなコミュニケーションを大切にし気持ちに共感する姿勢を職員全体が意識していく お互いの考えや情報を共有し子供の状況について理解を深める
	前年度の施設目標 （支援方針）	子どもたちの成長を支えるために保護者とのスムーズな連携・傾聴・共感を大切にしていく

項目	保護者評価、事業所内評価を踏まえた上での共通点	保護者評価、事業所内評価を踏まえた上で相違点
環境・体制整備	・スペースは確保されている　職員配置数は適正である ・子供にわかりやすく構造化されている（保護者会等でパワーポイントにて説明はした　また新規での説明会も同様である）	・活動のスペースが確保されていない（1）
業務改善	・職員の資質の向上に向けて研修、コンサルを行っている ・PDCAサイクルに職員は参画している ・保護者の意向等を把握し業務改善に努めている	
適切な支援の提供	・個々の特性を十分理解し支援計画を作成している ・活動内容が固定化しないように行っている ・幼保との交流は全員参加できる状態ではないので	・幼保との交流やその他地域との交流の機会がない ・十分理解し支援計画が立てられていない（1）
関係機関や保護者との連携	・関係機関との情報共有、連携は常に行っている ・保護者との連携等は必要に応じておこなっているが定期的に連携はとってはいない	・家族からの相談などに対応の整備がされていない（1）
保護者への説明責任等	・保護者会として懇談会の場を設定している ・定期的な面談を設けている	・保護者同士の交流の機会がない ・家族への支援がされていない（1）
非常災害等への対応	・定期的に発生を想定し訓練は行っている ・感染状況等は一斉に報告はしている	
支援プログラム	5領域でのプログラムを立てている（年間事業計画） 支援計画は5領域で区分されて個の計画を作成している	

分析検討してみての事業所の強み

・個の支援をするにあたって、個の特性を書きだし個の困り感苦手さを理解し、個別化の必要な部分は生活場面社会的場面においてアセスメント、計画、実行の流れで支援を組み立ててる。一貫したアプローチができるようにしている
IPPOの支援者全体がチームとして個の共通理解をし同じ支援をする協働を認識している。
・社会的段階を確認し社会的な機会を設定し大人が介入する中で個の発達を見ていくことを大切にしている
・課題活動（プログラム）は楽しく取り組めるように課題の組み合わせ考えている

分析検討してみての事業所の改善点

・個のスケジュールボードの内容のバリエーションを増やしていけるようにしていく
同じような生活の流れになっているので、子どもが行う活動の内容を増やす中で般化に繋げていきたい
先生に相談する時間　他児と話し合う時間　異年齢での遊ぶ時間などを検討していく（1階）

・少人数で車で移動し、いつもと違う場所でグループで戸外での散歩・遊び等の経験をしていく（2階）
・幼稚園が長期休み等の時に、場所だけを借りて遊具の乗り方などを体験していく（2階）

評価を行っての事業所としての感想

・保護者を含めた家族全体を支える「家族支援」が必要であると思う反面、個別面談だけではしっかりとお話ができない、幼保とは違い保護者となかなかお会いできることも少なく、もどかしさは正直あります。
お子様の良いところも困り感も前向きに共有できる関係が大切であり　必要なものであると改めて思います。
保護者の日々の不安などを和らげ子育ての負担を軽減していくことは、私たち支援者でもあるのは当然であるが、子どもの困り感、特性などを保護者も理解し受け止めていただきたい気持ちはあります
何故構造化をされているのか　何故生活するうえで個のスケジュールカードを有効に活用しているのかをきちんと発信する場が必要であると思う。幼稚園ではない保育園ではない療育の場であることをしっかりと理解していただくことも大切である。

今年度　施設目標	改善への取り組み	● 子どもの安心感と自己肯定感を育むため、個の観察をする中で子供の過程を認めありのままの存在を受け入れる ● 日々の小さなコミュニケーションを大切にし気持ちに共感する姿勢を職員全体が意識していく
	施設目標 （支援方針）	● それぞれの子どもが一人ひとりその子らしい力を発揮できるようにしたい（安心感と自己肯定感） ● 子どもたちの成長を支えるために保護者とのスムーズな連携・傾聴・共感を大切にしていく